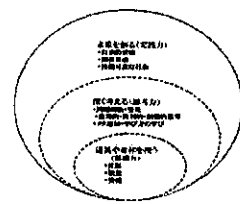

 国士館大学
 世田谷区立東深沢小学校第3回家庭教師学習組
 2016.12.10(土)

21世紀を生き抜くたくましい子どもの育成
 ～心も体も元気いっぱい！生きる力の種をまこう！
 <からだの種蒔き>

細越淳二(国士館大学)

国立教育政策研究所が整理した資質・能力の構造化のイメージ

①思考力を中核とし、それを支える②基礎力と、使い方を方向づける③実践力の三層構造



| 育められる力 | 具現化(イメージ) |
|----------------|--------------------------------------------------------------------|
| 実践力(実践力) | 生活や社会、現場の中に課題を見いだし、多様な経営と関係性を築きながら解決を導き、適切な人・物・金を知り使い、働きながら学ぶ力 |
| 深く考える(思考力) | 一人一人が自分の考えを持って問題を解決し、考えを比較対照して改善し、よりよい解決の案を導き出す力。さらに次の問いを深め、学び続ける力 |
| 道具や身体を動かす(基礎力) | 算数や教養、情報などの記号や器の身体を動かし、世界を理解し、表現する力 |

(文部科学省「次期学習指導要領等に向けたこれまでの蓄積のまとめ」より)

運動することの“よさ”とは何でしょうか？
 ～「運動で〇〇づくり」を考えてみる～

_____づくり
 (動きづくり, 体力づくり, 健康づくり)
 _____づくり
 _____づくり
 _____づくり

幼児・児童における身体活動の現状と問題点
 (『幼児期運動指針「中教審」幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」の答申(平成20年1月17日)より)

- 多様な動きを含む遊びの経験が少なくなっている
 - ・活発に体を動かす遊びが減っている
 - ・体の操作が未熟な幼児・児童が増えている
 - ・自発的な運動の機会が減っている
- 体を動かして遊ぶ時間や環境が少なくなっている
 - ・体を動かす機会が少なくなっている

幼児・児童における身体活動の現状と問題点
 (『幼児期運動指針「中教審」幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」の答申(平成20年1月17日)より)

- 子どもの体力低下が依然として深刻である
- 運動をする子としない子の二極化傾向が進んでいる
- 運動への関心や自ら運動する意欲、各種の運動の楽しさや喜び、その基礎となる運動の技能や知識など、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力が十分に育まれていない例も見られる

＊不安定で、ぎこちない動きの子どもの増加

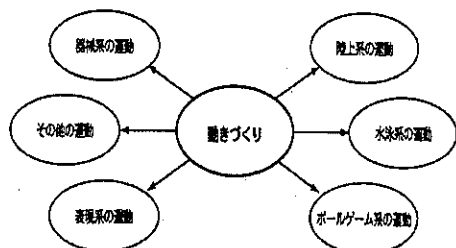
子どもの体力の現状 (平成26年度 体力・運動能力調査結果より)

表1 身体力テスト施行後(平成10～26年度)の体力・運動能力の推移

| 学年(性別) | 体力 | 上肢筋力 | 握力 | 握力持久力 | 20m×45秒 | 持久走 | 50m走 | 25m走 | 100m走 | 200m走 | 300m走 | 400m走 | 500m走 | 600m走 | 700m走 | 800m走 | 900m走 | 1000m走 |
|--------|----|------|----|-------|---------|-----|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 小学生(男) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ |
| 小学生(女) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ |
| 中学生(男) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ |
| 中学生(女) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ |
| 高校生(男) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ |
| 高校生(女) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ |

注: □は平成26年度と比較して、傾向が異なることを示す。

動きづくりの拡がりを考える



細越洋二ほか(2016)新しい体・魂・技の運動の授業づくり、大修館書店より

運動のよさを大切に 運動習慣の確立に向けて

<他者からの働きかけ(声かけ)>

⇒子どもの取り組みを認め、励ます大人の存在
「達成」の自覚が、次の意欲を生み出す

⇒運動は、楽しむことが大切。でもそこで「達成感」を得られることも併せて重要！

「できる」「かかわる」「わかる」を
大切にしたい体育授業の実現に向けて

<運動の日常化をめざした環境づくり>

⇒子どもたちが自分から運動したくなる

運動
場所
用具

の用意

運動のよさを大切に 運動習慣の確立に向けて

⇒シンプルで分かりやすい運動からはじめたい

⇒「挑戦課題」と「達成基準」

⇒大人も昔は子どもだった…あの頃の遊びを子どもたちに伝えることも、非常に価値のある取り組みに

⇒大人も運動を楽しむ時間を創りたい

* Adapted Physical Activity(それぞれの状況に合わせた身体活動)の考え方で、楽しい運動遊びを！

*「小さじ1杯の工夫」で子どもを変えたい！

動きの指導の工夫

・運動とリズムを考える

運動「は」リズム と 運動「の」リズム

・今ある活動(教材、学習の場)に対する「小さじ1杯の工夫」

動きは同じだけれども

場や条件を変えていくことで

動きの質の向上を導く

教育改革の方向性

(文部科学省「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」より)

「生きる力」とは何かを以下の資質・能力の三つの柱に沿って具体化し、そのために必要な教育課程の枠組みを分かりやすく再整理。

①生きて働く「知識・技能」の習得

②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成

③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養